



TITLE:

## 傍睾丸横紋筋肉腫の1例

AUTHOR(S):

西田, 篤; 鈴木, 博雄; 倉内, 洋文; 三谷, 比呂志; 川原, 元; 増田, 富士男

---

CITATION:

西田, 篤 ...[et al]. 傍睾丸横紋筋肉腫の1例. 泌尿器科紀要 1990, 36(9): 1089-1092

ISSUE DATE:

1990-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/116985>

RIGHT:

## 傍睪丸横紋筋肉腫の1例

東京慈恵会医科大学第三病院泌尿器科 (主任: 増田富士男教授)

西田 篤, 鈴木 博雄, 倉内 洋文

三谷比呂志, 川原 元, 増田富士男

## A CASE OF PARATESTICULAR RHABDOMYOSARCOMA

Atsushi Nishida, Fujio Masuda, Hiroo Suzuki,

Hirofumi Kurauchi, Hiroshi Mitani and Motoshi Kawahara

From the Department of Urology, the Jikei University School of Medicine

A case of paratesticular rhabdomyosarcoma in an 18-year-old male is reported. The patient was admitted for swelling of the right scrotum and right inguinal pain. Malignant tumor of the right testis was suspected and a high inguinal orchiectomy was performed. The pathological diagnosis was paratesticular rhabdomyosarcoma. Following retroperitoneal lymph node extirpation, chemotherapy, so-called CYVADIC therapy, consisting of cyclophosphamide, vincristine, adriamycin and dacarbazine was employed in 3 regimens. The patient is in good health without recurrence 16 months after the surgery.

(Acta Urol. Jpn. 36: 1089-1092, 1990)

**Key words:** Paratestis, Rhabdomyosarcoma, Chemotherapy

## 緒 言

陰嚢内に発生する傍睪丸横紋筋肉腫は、比較的稀な腫瘍とされている。最近われわれは後腹膜リンパ節(大動静脈間リンパ節, 右外腸骨リンパ節)に転移巣を認める、傍睪丸横紋筋肉腫 (group IV) を経験した。

## 症 例

患者: 18歳

主訴: 右陰嚢内容の腫大, 右鼠径部痛

家族歴: 父親が胃癌にて死亡

現病歴: 1987年12月頃より右陰嚢内容腫大を自覚するも無痛のため放置。1988年6月より増大傾向著明となり, 右鼠径部痛も出現したため, 7月21日慈恵医大第三病院を受診した。

入院時身体所見: 胸腹部に理学的異常を認めず。右陰嚢内容は, 触診上小児頭大で充実性で弾性硬, 表面凹凸不整で一塊となっており, 圧痛はなかった。左睪丸の萎縮はみられず正常所見であった。表在リンパ節の腫脹も認めなかった。

入院時検査所見: WBC 10,800/mm<sup>3</sup>, ESR 3/13, LDH 235 mU/ml, CEA 0.5 ng/ml, AFP 4 ng/ml 以下, HCG 2.7 mIU/ml, HCG-β 0.1 ng/ml。

一般尿検査, 心電図, 胸部X線撮影上, 異常所見を認めなかった。リンパ管造影 (Fig. 1) にて L<sub>3-4</sub> の右側にリンパ管の圧排像を, CT スキャン (Fig. 2) にて大動静脈間リンパ節の腫大を認め, 後腹膜リンパ節への転移を疑わせた。

手術: 右睪丸腫瘍の診断にて, 7月22日, 右高位除睪術を施行した。摘出腫瘍の病理学的診断は, 傍睪丸横紋筋肉腫であった。このため, 8月15日後腹膜リンパ節郭清術を行ない, 大動静脈間リンパ節と右外腸骨リンパ節の転移病巣が確認された。

摘出標本の病理所見: 摘出組織 (Fig. 3) は, 大きさ 21.0×18.5×9.0 cm, 重さ 903 g, 薄い繊維性被膜に包まれた腫瘍塊で, 断面は淡黄色, 軽度の光沢を有し, 大小の結節が癒合, 拡大, 発育を示す肉腫様の腫瘍性病変で, 出血, 壊死巣はほとんど見られなかった。睪丸は腫瘍によりかなり圧排されていたがその存在は認められた (Fig. 4)。組織学的には, 腫瘍細胞は比較的多彩で, 円〜類円形細胞, 短〜長紡錘形細胞等が見られ, 核異形, mitosis も多数見られた。それらの中に横紋筋への分化を示す好酸性胞体を持つ tad pole cell, strap cell が見られ, 明らかに横紋を示す分化した細胞も見られた (Fig. 5)。以上の特徴的所見より傍睪丸横紋筋肉腫 (embryonal type) と診断

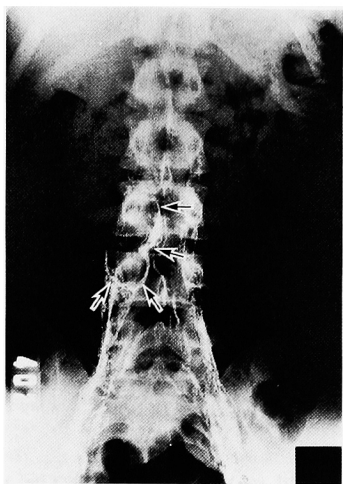


Fig. 1. Lymphography shows filling defect of lymph node (↑).

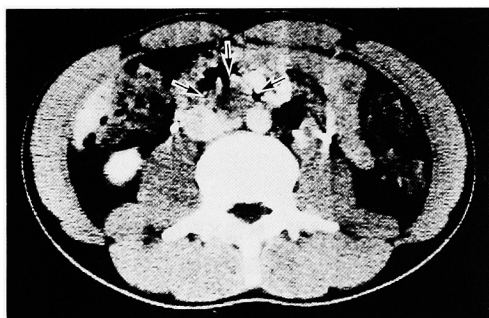


Fig. 2. Computerized tomogram demonstrates enlarged lymph node between aorta and vena cava.

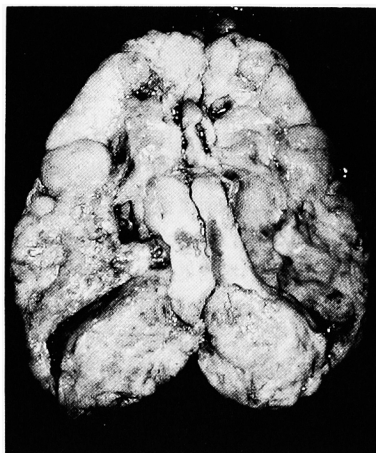


Fig. 3. Removed specimen: the tumor, which was composed of large and small nodosities, is light yellow and shows lustered.

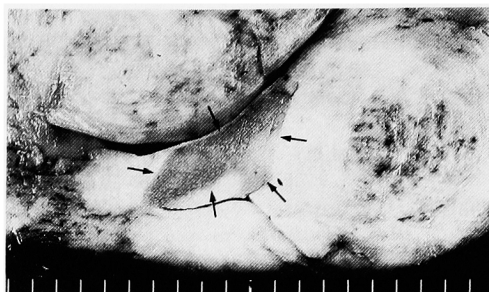


Fig. 4. Testis (↑) pressed by tumor

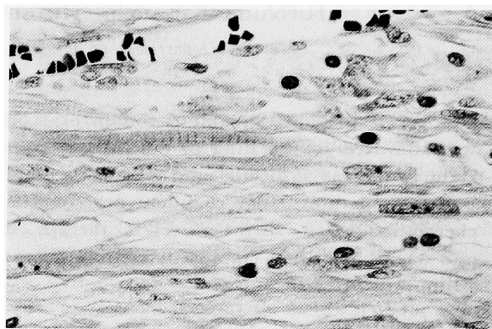


Fig. 5. (Masson's stain, ×400) Striated tumor cells

された。なお、残存せる睾丸には spermatogenesis はまったく見られず、腫大した Leydig cell を認めた。大動静脈間リンパ節の転移巣のうち最大なものは、大きさ  $8.0 \times 3.0 \times 2.5$  cm、重さ 30 g で、断面は陰嚢内の腫瘍と同じ組織で占められていた。

術後経過：本症の進展度分類としての Intergroup rhabdomyosarcoma study (IRS)<sup>1)</sup> により、group IV と判断し adjuvant chemotherapy として cyclophosphamide, vincristine, adriamycin, dacarbazine を併用する CYVADIC 療法を 3 コース施行し、術後 16 ヶ月、再発・転移の兆候もなく健在である。

## 考 察

陰嚢内に発生する横紋筋肉腫は比較的稀とされており、1849年 Rokitsansky<sup>2)</sup> による精索原発例が最初の報告である。本邦では 1918 年の平野<sup>3)</sup> による左副睾丸発生例を第 1 例とし、本例にて 113 例目を数える (Table 1)。大きさとしては、本邦例で記載のあるもののうち、秋山の 3,450 g、内山の 1,245 g<sup>4)</sup> につき、3 番目である。

本症例は、術前診断では陰嚢内容が一塊となっており睾丸腫瘍を疑ったが、除睾丸術後の組織学的診断にて傍睾丸横紋筋肉腫と確定した。発生部位は、圧排され

Table 1. 傍睾丸横紋筋肉腫報告例 (武村らの報告に追加)

	症例	年齢	発生部位	大きさ(cm)	重量(g)	治療
99)	北村	15	左傍睾丸	3.5×2.5×2		0+C
100)	藤末	15	右傍睾丸	6×4.5×3	45	0+C+L
101)	嶋本	62	左精索	13×12×10	865	
102)	大森	10	傍睾丸			0+C
103)	谷口	14	左傍睾丸			0+C
104)	谷口	16	右傍睾丸	手拳大		0+C+L
105)	中田	6	右傍睾丸			0+R+C
106)	河原	6	左精索	3.5×2.5×2.5		
107)	瀬尾	10	右精索	胡桃大		0+R+C
108)	千葉	13	左傍睾丸	10×6×7	280	0+C
109)	川崎	1	右傍睾丸	7×4×3	75	0+C
110)	後藤	20	右傍睾丸			0+L+C
111)	島田	61	右精索	超鶏卵大	310	0+L
112)	加藤	20	左精索	1×1×1.2		0+L
113)	自検例	18	右傍睾丸	21×19×8	903	0+L+C

0:高位除睾丸術 C:化学療法 R:放射線療法 L:後腹膜リンパ節郭清

た睾丸は認めたものの他の部位はほとんど区別することができず、傍睾丸部としか診断することができなかった。このことから、本邦にて傍睾丸部からの発生率が51%(56例)を占めるといわれているように、本腫瘍の浸潤度の速さがわかる。外科的治療として、高位除睾丸術および後腹膜リンパ節郭清術<sup>4)</sup>を行った。これは、本腫瘍が他の軟部組織肉腫と異なり、リンパ行性転移が血行性に比べ優位である<sup>4)</sup>という報告が多く、また転移は診断時にすでに28%、1年以内に83%認められること、部位別では、後腹膜リンパ節転移が69.2%と最も多いことによる。

後腹膜リンパ節について転移の見られる部位は、肺、鼠径リンパ節、肝臓の順であり<sup>5)</sup>本例はこうした他の部位への転移の可能性を考慮して、軟部組織肉腫の治療で良好な成績を治めている dacarbazine (DTIC)を中心とし cyclophosphamide (CPM), vincristine (VCR), adriamycin (ADM)を併用する CYVADIC療法<sup>7)</sup>を3コース施行した(Table 2)。副作用として、中等度の白血球減少と高度の消化器症状と脱毛が見られたが、投薬中止後、2~3週間後には全て正常状態に回復した。予後として、生存期間は術後3ヵ月~8年1ヵ月、平均約16ヵ月<sup>7)</sup>といわれているが、最近では集学的治療の発達により改善しつつある。5歳以下での生存率は圧倒的によく、Littmanら<sup>8)</sup>は5年生存率42.8%と報告しているが、逆に11~15歳では9%であり、男性ホルモンの関与も考えられている。本例は18歳であり予後が良好であるとは言えず、今後十分な follow を行ってゆく予定である。

## 結 語

1) 18歳の傍睾丸横紋筋肉腫 (embryonal type) の

Table 2. CYVADIC 療法の投与方法

Cyclophosphamide	400-500mg/m <sup>2</sup>	Day 1
Vincristine	1-1.5mg/m <sup>2</sup>	Day 1
Adriamycin	30-50mg/m <sup>2</sup>	Day 1
Dacarbazine	200-250mg/m <sup>2</sup>	Day 1-5

投与期間 3-4W

1例を報告した。

2) adjuvant chemotherapy として cyclophosphamide, vincristine, adriamycin, dacarbazine, による4剤併用療法 (CYVADIC療法)を施行し、術後16ヵ月経過したが再発の兆候は見られていない。

3) 腫瘍の浸潤度から考え、早期発見・早期治療が本症の予後改善に重要であり、早期発見に努めることが大切である。

## 文 献

- 1) 竹年克郎, 高野 学, 布施春樹, 田尻伸也, 清水公男, 大倉充久: 小児前立腺横紋筋肉腫の治療経験. 泌尿紀要 **33**: 713-718, 1987
- 2) Rokitsansky C: Ein aus quergestriiften Muskelfasern constituirtes after gebilde. Ztschr. d.k.k. Gesellsch. d. Aerzte in Wien **5**: 331, 1849
- 3) 平野徳三郎: 副睾丸横紋筋肉腫の1例. 日泌尿会誌 **7**: 181-182, 1918
- 4) 天野正道, 松村陽右, 新島端夫: 精索横紋筋肉腫の1例およびその文献的検討. 西日泌尿 **36**: 606-615, 1974
- 5) Rancy RB Jr, Hays DM, Lawrence W Jr, Soule EH, Tefft M and Donaldson MH: Paratesticular rhabdomyosarcoma in childhood. Cancer **42**: 729-736, 1978
- 6) 武村 聡, 仲野 智, 川田 望, 平野大作, 清滝

- 修二, 北島清彰, 岡田清己, 岸本 孝: 傍睾丸筋肉腫の1例. 泌尿器外科 **1**: 447-451, 1988
- 7) 中田誠司, 関原哲夫, 牧野武雄, 柴山勝太郎, 山中英寿: 傍睾丸横紋筋肉腫. 臨泌 **41**: 900-901, 1987
- 8) 松本誠一, 川口智義, 網野勝久, 真鍋 淳, 古屋光太郎, 和田成仁, 磯辺 靖: 軟部肉腫の化学療法 (CYVADIC 療法). 臨整外 **20**: 906-913, 1985

(Received on November 24, 1989)  
(Accepted on March 8, 1990)